

【スライド10】

こちらがラブラッドの活用状況ですけれども、左側の表をご覧くださいと思います。ラブラッド導入時、平成30年度の10月に導入しましたが、会員数は約36万人の状況でございましたけれども、昨年度、令和4年度については57万人の状況で、約20万人が増加している状況でございます。予約についてもご覧のとおり、事前に予約をいただきながら献血をしていただいている状況でございます。

日本赤十字社

### Web会員サービス「ラブラッド」活用状況

- ・「ラブラッド」の登録会員の獲得のほか、  
献血協力の事前予約を推進  
⇒必要血液量を計画的かつ安定的に確保
- ・事前に問診回答が可能になり、献血カードも  
アプリに献血がより身近なものに  
⇒ラブラッド会員の増加と複数回献血への促進



【「ラブラッド」の活用状況】

|                        | ラブラッド<br>会員数 | 予約率<br>(血小瓶成分献血) | 予約率<br>(血漿成分献血) | 予約率<br>(全血献血) |
|------------------------|--------------|------------------|-----------------|---------------|
| ラブラッド導入時<br>(平成30年10月) | 約36万人        | 48.2%            | 45.0%           | 1.9%          |
| 令和3年度                  | 約53万人        | 73.0%            | 69.4%           | 25.1%         |
| 令和4年度                  | 約57万人        | 78.9%            | 73.2%           | 30.5%         |
| 増減 (R4-R3)             | 約4万人増        | 5.9ポイント増         | 3.8ポイント増        | 5.4ポイント増      |

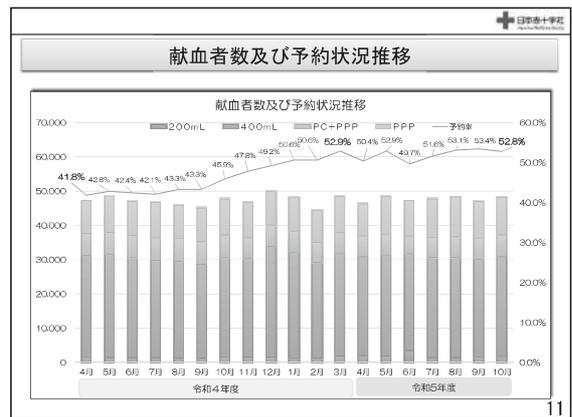
ラブラッド会員数は増加し、予約率も向上

10

この利便性としましては2つございます。まず1つ目は、必要血液量を計画的かつ安定的に確保していくということで、事前予約を推奨しながら進めている状況でございます。2つ目は、ラブラッド会員の増加と複数回献血者の促進を図っていくことで、年々実献血者数が減少していく中、複数回献血に導くことを促進している状況でございます。また、事前問診を献血会場で実施しなくても事前に問診をしていただいで献血会場に来ていただく機能もございます。

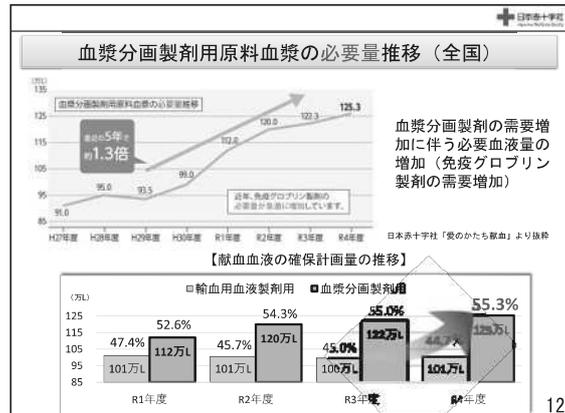
【スライド11】

こちらの、棒グラフですけれども、令和4年度から令和5年度の10月までを表としたものになります。一番右側の10月ですけれども、先ほどご説明させていただいたとおり、52.8%の予約をしていただいで献血にご協力いただいでいることで、左側の令和4年度の4月、41.8%から10%ほどの増加をしている状況でございます。



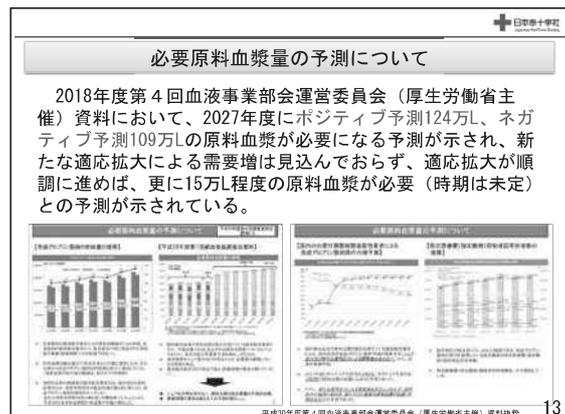
一方で血漿分画製剤の原料血漿の必要量が年々増加している状況もございます。昨年度については、全国で125.3万リットルの必要量で、国から示されました。近年5年間で1.3倍の増加をしている状況でございます。また右下段の令和4年度につきましては、輸血血液製剤が約101万リットル、原料の血漿成分製剤については125万リットルで、輸血用の血液製剤を上回る必要量になっている状況でございます。

【スライド12】



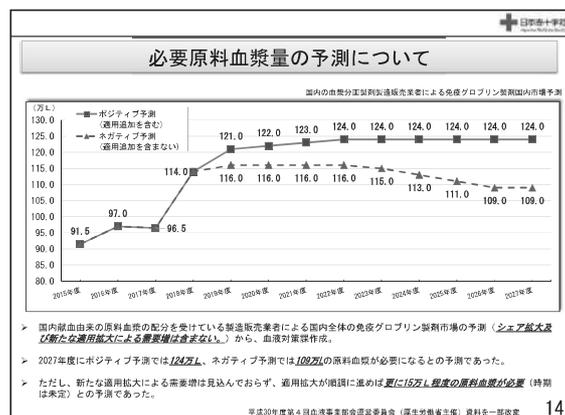
こちらが原料血漿の必要量を予測したものととなりますが、2018年度の第4回血液事業部会運営委員会、こちらは厚生労働省が主催で実施をしている会でございますけれども、こちらで2027年度にはポジティブ予測で124万リットルが必要になるという予測が示されています。

【スライド13】



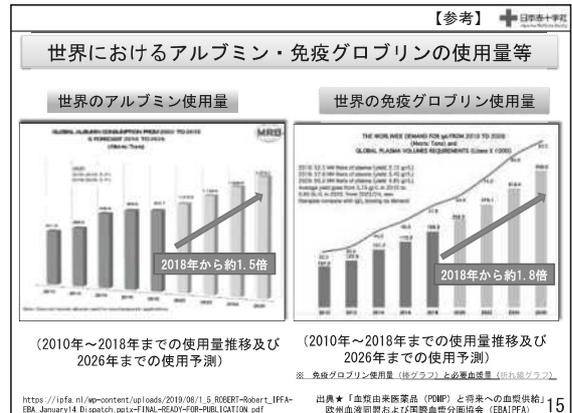
こちらが折れ線グラフですが、上段の実線の折れ線グラフがポジティブ予測の必要量で、国から示されております。ほぼ国の予測が現在の必要量と合っている状況でございます。

【スライド14】



【スライド15】

こちらは参考ですけれども、世界的にもアルブミン製剤・免疫グロブリン製剤の使用量が増加していることが示されておりまして、2018年度から2026年度までの、世界の必要量を予測しており、増加傾向にあるという資料が示されています。



【スライド16】

こういった状況を踏まえまして、血漿分画製剤の専用献血ルーム、東京八重洲献血ルームが本年5月1日に設置をされました。開設のコンセプトとしましては、血漿分画製剤の社会的認知と、その製剤に必要な血漿献血の重要性・必要性を理解していただくことです。また、これまでの献血にご協力いただくための献血ルームから、献血される方が自由に使える時間と空間という、献血者の視点で利便性・快適性を追求する献血ルームを設置させていただいております。

血漿成分採血専用 献血ルーム

東京八重洲献血ルーム

○ 概要

開所時期 : 令和5年5月1日

場 所 : 東京都中央区八重洲2-1-1 YANMAR TOKYO 3F

面積概算 : 586.9㎡

ベッド数 : 12ベッド

○ 開設コンセプト

血漿分画製剤の社会的認知と、その製造に必要な血漿献血の重要性・必要性を理解していただく。  
 これまでの「献血に協力していただくための献血ルーム」から、「献血される方が自由に使える時間と空間」という、献血者の視点で利便性・快適性を追求する。

16

【スライド17】

こちらが受付とコワーキングスペースの設置状況でございます。コワーキングスペースについては、ご自由に使用していただくことができます。東京駅と直結しているYANMARビルの3階ですので、見晴らしがよく、快適にいただいている状況でございます。



また、上段の採血室についてもベッドの間隔を通常の設置から大きく間隔を空けまして設置をしています。また下段は血漿分画製剤を展示しまして、このような製剤が使われることをお示しして、皆さんに献血への理解をいただいている状況でございます。

【スライド18】



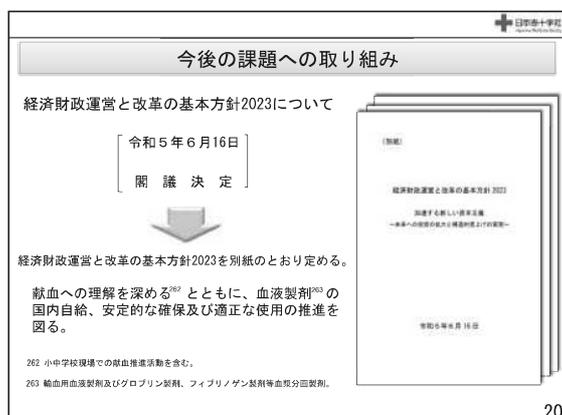
こちらの献血ルームは5月の9日に開所式をいたしまして、東京都知事もごあいさつに参列いただきまして、盛大に進めさせていただきました。

【スライド19】



今後の課題への取り組みとしましては、本年6月16日に閣議決定がされました経済財政運営と改革の基本方針2023が示されてございますが、その中にも献血への理解を深めるとともに、血液製剤の国内自給または安定的な確保および適正な使用の推進を図るということが示されています。

【スライド20】



## 【スライド21】

このような状況を踏まえまして、今後、1つ目としましては、関係者との連携強化、行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深めるとともに事業を進めていきたいと考えています。

また2つ目としましては、新しい生活様式に適応した献血血液の確保体制の確立で、必要血液量の安定確保および血液製剤の安

定供給、安全で快適に献血ができる環境の整備、企業等への献血協力依頼におけるアプローチ方法の見直し、しっかりCSR活動への働き掛け等を図っていききたいと考えています。

最後の3つ目ですが、将来の献血基盤の構築ということで、やはり若年層献血者の確保協力を強化しなくてはならないと考えています。小・中・高等学校を含め、献血セミナーの強化、または先ほどからご説明させていただいています、献血ウェブ会員サービス、ラブラッドへの登録促進、さらにはラブラッドを活用した献血予約の推進を図って進めていきたいと考えています。

先ほど受賞された企業の皆さま方、大変ご協力、ご尽力いただきましてありがとうございます。今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。新しい生活様式を踏まえ、献血血液の安定確保に向けてまい進していききたいと考えています。



**今後の課題への取り組み**

- **関係者との連携強化**
  - ・行政、医療機関、献血協力団体を始めとする関係者との相互理解を深め、事業を進める。
- **新しい生活様式に適応した献血血液確保体制の確立**
  - ・必要血液量の安定確保及び血液製剤の安定供給
  - ・安全で快適に献血ができる環境の整備
  - ・企業等への献血協力依頼におけるアプローチ方法の見直し（CSR活動への働きかけ等）
- **将来の献血基盤の構築**
  - ・若年層献血者の協力強化
  - ・小・中・高等学校等での献血セミナーの増加
  - ・献血Web会員サービス「ラブラッド」への登録を促進
  - ・「ラブラッド」を活用した献血予約の推進

21

## 【スライド22】

これで私のご説明は終了させていただきます。ご清聴ありがとうございました。



ご清聴ありがとうございました。



**ラブラッド**



22